

# Newsletter

日本養護教諭養成大学協議会

Vol.53 2025.3.31

日本養護教諭養成大学協議会  
ニューズレターVol. 53  
会 長 遠藤伸子（女子栄養大学）

## ★ ★ ★ ★ ★ 目 次 ★ ★ ★ ★ ★

|                      |   |
|----------------------|---|
| 協議会副会長挨拶・・・・・・・・・・   | 1 |
| 2024年度総会を終えて・・・・・・・・ | 2 |
| 20周年記念行事・記念誌について・・   | 3 |
| 講演の報告・・・・・・・・・・      | 4 |

|                      |   |
|----------------------|---|
| ワークショップの報告・・・・・・・・   | 4 |
| リレー連載 教職大学院における養成・・  | 5 |
| 各委員会活動報告・・・・・・・・     | 5 |
| 協議会活動報告・事務局からのお知らせ・・ | 6 |



### 副会長あいさつ

副会長 鎌塚優子  
(静岡大学)

穏やかな優しい日差しに包まれ春の気配を感じる今日この頃です。年度末を迎え、会員校の皆様におかれましてはお忙しい日々をお過ごしのことと拝察いたします。今年度、今期の副会長として就任し、FD委員会の委員長も兼任させていただいております。過日実施された本会の事業であるFD検討委員会担当の合理的配慮等にかかわる調査やワークショップ（3月3日実施）では、会員校の皆様方の多大なるご協力・ご参加を賜り、誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。

さて、今、我が国は急速な少子化に伴い、経済のみならず、さまざまな分野への甚大な影響が懸念されています。また、地球の温暖化をはじめとする地球変動の問題も深刻さを増しています。加えて昨今のAIの著しい発達は、予測される問題を十分に吟味・回避する間もなく日々進展し続けており、今後、起こりうる目に見えないリスクが不安視されているところでもあります。特に少子化問題における教育機関への影響は著しく、小・中・高等学校等の統廃合の加速化は学校を中心とした地域の文化の発展や活力をも失いかねない状態を生み出しています。高等教育機関である大学も同様であり、受験者数の減少は経営上に多大な問題をもたらすなど、どの大学においても非常に大学運営が難しい時代に入ったといえるでしょう。そのような中、これからの時代、高等教育が何を目指していかなくてはならないのか、また今、大学そのもののあり方も問われています。

このような国の危機的状況をふまえ、先日、「我が国の「知の総和」向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～（答申）（令和7年2月21日中央教育審議会）」が発出されました。答申では、目指す未来像：「一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ（well-being）の実現を核とした、持続可能な活力ある社会、育成する人材像として：持続可能な活力ある社会の担い手や創り手として、真に人が果たすべきことを果たせる力を備え、人々と協働しながら、課題を発見し解決に導く、学び続ける人」ことが明示されました。今後、各大学が個々に考えていくことではありますが、本協議会としても養護教諭養成としてはどうあるべきか、本質をしっかりと見つめ、真剣に考えなくてはならない重要な時期に入ったといえます。

社会全体、そして地球規模での変革の著しい時代において、最も影響を受けるのが子供たちです。養護教諭はその支援の最前線に位置しています。子供たちの現状をふまえた上で、かつ今後、未来に起こりうることを予測しながら、コアカリキュラムの検討や改善、ねらい達成のための教育方法のあり方などについて考えていく必要があります。これらは協議会が総力を挙げて取り組むべき喫緊の課題であるといえるでしょう。さらには、協議会として、国の動向をいち早く掴み、問題となりうることへの提言や積み残されている要望課題も含め、国に積極的に働きかけていく必要があります。

来年度、本会は設立20周年を迎えます。学生は次の時代を創る担い手です。この激動の時代の節目に、改めて学生をどう育てていけばよいのか、全国の養護教諭のために何かできるのかについて考える期としたいと思います。そして、会員校の皆様とともに、諸先輩の思いや活動を振り返り、揺るぎない本会の使命と役割が何かを考え、共有し、継承していくことも含め、本協議会のさらなる充実と発展に向けて尽力して参りたいと存じます。

## 2024年度総会を終えて

開催日時:2024年9月6日

開催方法:オンラインによる開催

2024年度の総会は、9月6日（金）にオンラインにて開催し、多くの会員校の先生方にご参加いただき、無事終了することができました

（議決権を有する会員校135校のうち参加90大学、委任状30大学）。

遠藤会長より、開会の挨拶がなされ、オンライン開催の中、多くの会員の方々にご参加いただけたことに感謝が述べられました。総会議長として、大川尚子先生（京都女子大学）、岩崎和子先生（北海道教育大学）が選出され、以下の議題が審議並びに報告されました。投票はzoom機能を用いて行い、委任状を含め、過半数を超えた場合に承認といたしました。

- 議題 1 2023年度事業報告：池添より報告を行い承認されました。
- 議題 2 2023年度決算報告：齋藤理事より報告され、承認されました。
- 議題 3 2023年度監査報告：西岡監査委員により報告され、承認されました。
- 議題 4 2024年度事業(中間)報告：池添より報告を行い、承認されました。
- 議題 5 2024年度修正予算（案）：齋藤理事より提案され、承認されました。
- 議題 6 一大学の複数加盟ならびにそれに伴う日本養護教諭養成大学協議会規約の一部改正(案)について：遠藤会長より提案され、一大学の複数加盟が承認されました。また上記議題に引き続き、一大学における複数加盟は2学部までとし、それに伴う

本協議会の規約の一部改正(案)についても提案され、承認されました。

議題 6 2025年度事業計画(案)：池添より提案し、承認されました。

議題 7 2025年度予算(案)：齋藤理事より提案され、承認されました。

総会に続いて開催された講演では、放送大学教授の川島聡氏から「障害のある学生への合理的配慮～紛争の防止と解決、人権モデルと社会モデルを理解する」をテーマにご講演をいただきました。さらに文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課健康教育調査官川畑千種氏から「養護教諭の資質向上と学校保健の推進について」ご講演いただきました。

実践、教育、研究の立場から大変意義のあるご講演で、参加者からは、「すぐに実践につなげていきたい」「合理的配慮など概念について理解を深めることができた」「養護教諭を取り巻く状況、児童生徒の現状についての理解を新たにした」など、多くのご意見やご感想をいただきました。

さまざまな教育改革がなされている現在、本協議会の果たす役割は大きくなっていることを実感します。今後も教育行政の動向をふまえた学びを共有する企画を検討し、ニーズに沿った協議会運営を行っていきたいと思います。今後ともご助言、ご支援をいただけますようお願い申し上げます。

（文責：池添志乃）



### 《会長より》

2024年度の総会も会員校のご要望が多かったオンライン開催と致しました。その結果、終了後のアンケートからも参加していただいた多くの方からご賛同いただけたことがわかりました。その一方で、「以前のような対面での懇親会をしたい」、また、「ワークショップなどは対面の方が良い」とのご意見を頂いたことから、2024年度の活動として、急遽3月にFD委員会主催で対面ワークショップを行うこととしました。おかげ様で大変有意義な時間を共有することができましたこと、ご参加頂きました会員校の皆様にお礼申し上げます。なお、このワークショップに先だって開催した講演につきましては、ゴールデンウィークが開けるまでオンデマンド配信をさせていただきますので是非ご視聴ください。また、総会でご報告したように2025年度は本協議会が発足し20周年を迎えます。次年度は記念大会のため、総会及び総会に続く講演やワークショップも対面で準備をさせていただいております。また、終了後は久方ぶりになりますが、会食を伴う対面での情報交換会を開催予定ですので、ご案内した折には是非ご参加ください。

なお、この度の総会では会員校から要望のあった、一大学複数加盟についてご審議いただきました。ご提案にご賛同戴けましたこと心より感謝申し上げます。このご提案は、会員校様からのご要望に応えるため、理事で検討した結果、ご審議いただいた経緯がございます。

今後も本協議会は会員校の皆様のご意見を真摯に受け止めていきたいと思っておりますので、何卒ご協力ご支援戴けますようお願い申し上げます。

（遠藤伸子）

## 総会事後アンケートの結果と2025年度総会の予定

2024年度総会終了後、総会・講演のアンケートを実施いたしました。

「総会」「委員会報告」のオンライン開催については「参加しやすかったです。」「資料の説明がより分かりやすくなりました。」などのご感想をいただきました。一方では、投票に関して「回答時間が短く考えている間に閉じられてしまいました。」などのご意見もありました。

また講演についての学びとして、川島氏のご講演に対して「合理的配慮についての理解の深まり」「学生の学びを保障するうえでの合理的配慮の大切さの実感」「建設的対話の重要性の認識」「当事者の人権尊重の大切さの学び」などがありました。川畑氏のご講演については「最新情報に関する学び」「養護教諭養成における新たな課題と資質能力の向上の重要性の認識」「教育や学校保健の動向についての新たな知見の獲得」「現代的健康課題の再認識」などがありました。今後希望する講演内容としては「コアカリキュラム」「養護教諭養成のこれから」「授業改善」「子どもと家族への支援」「医療的ケア児に関して」などのご意見をいただきました。多くの方々からいただいたご意見、ご感想は、今後の協議会の運営のあり方や活動等を検討する際に活かしていきたいと思っております。多くのご意見、ご感想をいただき、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 【2025年度総会について】

2025年は、20周年記念大会として総会および講演を対面で行いたいと考えております。

日時：2025年9月5日（金） 場所：きゅりあん・1階小ホール（東京都品川区東大井5-18-1）

詳細の内容や時間等につきましては、確定しだい皆様にお伝えするようにいたします。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

（文責：池添志乃）

### 協議会設立から今年で20年！

### 20周年記念行事・記念誌編集委員会について

2005年11月26日、日本養護教諭養成大学協議会の設立総会が開催されました。2016年には10周年、本年2025年は、20周年を迎えます。この度、本協議会創設20年を記念して、「20周年記念誌」を発行することとなりました。記念誌発刊にあたり、20周年記念誌編集委員会を立ち上げ、西岡かおり先生（四国大学）、籠谷恵先生（杏林大学）、神田奈津子先生（名桜大学）、妻鹿智晃先生（帝京短期大学）、池添の5人のメンバーで取り組んでおります。

71大学・短期大学（部）の加盟のもと発足した本協議会ですが、10年後の2015年度には124校、2024年度は135校の会員校となりました。2016年からの10年を振り返ると、社会や学校現場はめまぐるしく変化しました。特に2020年に急速に広がった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって、私たちの社会生活は大きく変わり、子どもの生活や健康に関わる課題もより一層複雑化、多様化しました。同時に本協議会に求められる役割も大きく変化してきたことを実感します。

本協議会の目的は、「養護教諭養成に関わる大学、短期大学（部）および大学院相互の提携と協力によって学術と教育の発展に寄与し、養護教諭養成の進展に関わる高等教育機関の使命達成に貢献すること」とあります。設立から20年が経ち、この目的のもと、本協議会が担う役割は一層、拡大し、重要になってきます。

20周年記念誌では、歴史を築いてくださった諸先生方の思いを継承するとともに、社会の変化の中で変革してきた本協議会の歩みを伝えていきたいと思っています。そして、本記念誌が会員の皆様相互のつながりをさらに強化し、これからの活動の指針の一助となるように取り組んでまいります。

また、2025年度の総会開催に合わせて、講演や分科会、情報交換会、本協議会の20年の歩みを振り返るスライドショー等の記念行事を企画しておりますので、多くの皆様にご参加いただければと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

文責：20周年記念誌編集委員会担当 池添志乃（高知県立大学）

## 2024年度講演

- ①「障害のある学生への合理的配慮～紛争の防止と解決、人権モデルと社会モデルを理解する」
- ②養護教諭の資質向上と学校保健の推進を目指して」

2024年9月6日の総会後、引き続きオンラインにて2つのご講演をいただきました。

まず、近年大学でも課題となっている「障害のある学生への合理的配慮～紛争の防止と解決、人権モデルと社会モデルを理解する」について川島聡教授（放送大学）からうかがいました。障害者差別解消法の概要、差別解消に関する国の方針、不当な差別的取扱いと合理的配慮との関係、学生と大学の建設的対話による紛争の防止と解決について、具体例をもとに学ぶことができました。

続いて文部科学省初等中等教育局健康教育食育課の川畑千草調査官より「養護教諭の資質向上と学校保健の推進を目指して」として、昨年1月に示された調査研究協力者会議の議論の取りまとめや、保健室利用状況に関する調査報告書の内容、学校保健推進体制整備事業等の予算措置、その他学校保健に関する最新の動向を詳しく学ぶことができました。（文責：鈴木裕子）

## FD委員会によるワークショップ

### 「合理的配慮について考えよう～修学と卒業後をつなぐ支援～」報告

2025年3月3日開催

FD委員会の運営によりワークショップを開催しましたので、ご報告申し上げます。

テーマ：合理的配慮について考えよう

～修学と卒業後をつなぐ支援～

日 時：2025年3月3日（月） 13:00-16:30

場 所：東京都港区高輪4-23-5

品川ステーションビル5階A号

参加者：42名

<趣旨>

特別支援教育が推進されてから20年、大学進学までの教育機関で様々な支援を受けてきた発達特性のある学生の大学進学が増えています。合理的配慮を希望する学生の増加や、周囲の学生や教職員が対応の必要性を感じる学生など、様々な学生への適切な支援が求められています。ワークショップでは、発達障害特性のある学生の理解を深め、学生の自己実現のための支援について、養護教諭養成機関として取り組むべき合理的な配慮と教育的な対応、就職支援のあり方について考えました。

<学習のねらい>

- 発達障害特性のある学生に対する学生支援（合理的配慮、教育的対応等）についての理解
- 発達障害特性のある学生に対する、授業における合理的配慮（教育的対応含）を考える。
- 発達障害特性のある学生の能力が活かせるような就職支援を考える。
- 紛争解決にあたっての法的な理解、当事者に寄り添った対応の留意点について理解。

<当日の日程>

13:00 開会

13:10-14:00 講演「発達障害特性のある学生に対する合理的配慮と教育的な対応～修学支援と卒業後に向けた支援を考える～」

高橋 知音 氏（信州大学 教授）

14:00-15:00 グループワーク（ケース検討）

15:00-16:15 発表及び講師からの コメント

16:15-16:30 まとめ

講演及びケース教材を用い、具体的な対応方法を検討しました。グループワークは、1 グループ 4～5 名の4グループに分かれて活動を行いました。事後アンケートからは、「頻繁にありうるリアルなケース教材を用いた検討により、より深い支援のあり方を考えることができた」「さまざまな養成背景を持つ参加者との意見交換により、新たな視点を持つことができた」「どの段階でどのような支援が必要かについて考えることができた」「養護教諭養成等の教員は比較的、障害特性のある学生の支援を考えられるが、組織全体の気要因の感性を高める必要があると感じた。」などの感想が寄せられ、概ねワークショップのねらいを達成することができたと考えます。

ワークショップの詳細につきましては、来年度9月に配信される2024年度活動報告書をご覧ください。なお、講演のみオンデマンド配信させていただきますので、新年度の学生支援に役立ていただければ幸いです。（配信2025年5月6日まで）

## リレー連載！ 教職大学院における養成

チーム学校で発揮する  
養護教諭の専門性を高めるために

浅田知恵（愛知教育大学）

愛知教育大学では、平成5年度に大学院教育学研究科（修士課程）養護教育専攻が設置され、100人近い修了生を輩出してきました。一方、教職大学院（専門職学位課程）は、平成20年度に設置され、現職教員と学部直進者等が共学する特色を生かした人材育成を図ってきました。

そして令和2年度、学校における複雑化・多様化した課題や新たな社会の変化への対応を背景とし、これまでの大学院教育の成果を踏まえ、大学院教育学研究科に一本化されました。教育実践高度化専攻（教職大学院）は、理論の応用並びに実践の理論化に関わる諸能力の修得によって実践的指導力を備えた教員を養成するとともに、現職教員には確かな指導理論と実践的・応用力を備え、指導的役割を果たし得る教員を養成することを目的としています。また本学の教職大学院は、「学校マネジメントコース」「教科指導重点コース」「児童生徒発達支援コース」「地域・教育課題解決コース」の4つのコースがあり、養護教育実践系は「児童生徒発達支援コース」に設定されています。このコースは子どもの心身の発達を多面的に捉え、学校組織内外との連携・協働を進める人材の育成を目指し、養護教育実践系では専門科目や実践研究指導の科目等を通して養護教諭としての専門性の向上を図っています。

教職大学院では、様々な校種を志望する一般学生や現職教員学生とともに学びます。グループワーク等を通して一般教諭の視点に気付いたり、養護教諭としての意見を述べたりという活動を通して、チーム学校としての協働の在り方を理解することになります。こうした経験は、学部の養護教諭養成教育と異なる学びとなり、視野が広がる機会になるとともに、養護教諭としてのアイデンティティの確立につながるように思います。さらに、各自の研究テーマの実践研究は、勤務校や実習校において、実際に子供たちとの関わりを通して、理論と実践の融合・往還を繰り返しながら取り組みます。実践研究を深めるプロセスを経ることで教職大学院生が着実に育つ姿から、理論と実践を融合・往還することの意義を感じます。



## 各委員会活動報告

## 養成制度・カリキュラム検討委員会

今野洋子（北翔大学）

亀崎路子（杏林大学）

本委員会では、2024年4月～2025年1月の間に、9回の会議を開催し、養護教諭養成コアカリキュラム2024の検討を重ねて参りました。

2020年のコアカリキュラムを踏まえつつ、変化の激しい現在の日本の状況を踏まえながらの協議を実施しています。また、医学・看護学の近接領域のコアカリキュラムを参照しつつ、養護教諭の専門性および独自性を追究しながらの検討を行っています。

「コンピテンシーからカリキュラムへ、カリキュラム群を残しつつもより必要な群へと細分化し、養護学の構築を展望できるようなものに」というのが、本委員会におけるコアカリキュラム作成の基本です。

本委員会の委員は北海道・関東・関西・九州と日本各地にわたっているため、zoomによるWEB会議の開催が主でした。しかし、2024年12月13日・14日には、北海道における対面での会議を開催することができました。雪の札幌で、熱い議論が交わされ、コアカリキュラム構成のおおよそを確定することができました。

9回目の1月30日の会議で確認し、現在、「A群：養護教諭として求められる基本的な資質能力、B群：社会と学校における養護、C群：学校における養護の対象理解に必要な基本的知識、D群：養護実践の基本となる専門基礎知識、E群：養護実践の基本的展開と質の確保、F群：養護実習、G群：養護実践の省察と養護学への探究」というA～G群に分けての検討をしています。

なお、基板となるA群は「1 専門性（プロフェッショナルリズム）、2 学校における養護の知識と養護実践、3 根拠に基づいた課題対応能力。

4. コミュニケーション能力、5. 保健・医療・福祉・教育における協働、6. 支援の質と安全の確保、7 社会から求められる養護教諭の役割の理解、8. 科学的探究、9. 生涯にわたり学び続ける姿勢」から構成されます。全体構成・内容等ももう少し検討が必要ですが、養護教諭にとって必要なコアカリキュラムを確立することに近づいています。

さらに、3月19日・20日は、再び、委員が北海道に集結して、検討を進める予定です。

## F D検討委員会活動報告

鎌塚優子（静岡大学） 荒川雅子（東京学芸大学）

2024-2026期F D検討委員では、発達障害特性のある学生の理解を深め、学生の自己実現のための支援について、養護教諭養成機関として取り組むべき合理的な配慮と教育的な対応、就職支援のあり方について考えるためのワークショップならびに実態調査を企画しました。

### 【開催月日及び内容】

第1回：2024. 8. 20(火)11-12時（オンライン）顔合わせ、今までの経過と今後の活動について

第2回：2024. 10. 20(日) 9-16時（対面）実態調査、ワークショップの内容検討

第3回：2024. 12. 28(土) 9-16時（対面）実態調査内容確認、ワークショップで使用するケース教材作成、ワークショップ役割分担

第4回：2025. 1. 30(木)10-12時（オンライン）ケース教材確認、ワークショップ当日の流れ確認、ワークショップ前後の調査内容確認

第5回：2025. 2. 14(木)13-13:30（オンライン）ワークショップ当日の流れ最終確認、ワークショップの配信について、事後調査について

ワークショップは2025. 3. 3(月)に対面及びハイブリッド配信（講演のみ）にて実施することができました。詳細につきましては、ワークショップ報告にて報告いたします。また、実態調査、およびワークショップ前後の調査につきましては今後分析し、皆様に報告いたします。

## 事務局・会計からのお知らせ

■2024年度に引き続き、事務局は女子栄養大学内に設置しております。引き続き宜しく願い申し上げます。なお、4月になりましたら、例年お願いしております、会員校様の評議員登録や、年会費振り込みや基本調査のお願いなどの連絡をさせていただきます。

行き違いのないよう、事務局へのお問合せや各種届、申請等は、FAXではなくなるべくメールでいただけますようご協力お願い申し上げます。（遠藤伸子）

■2025年度のセミナーは会員校の先生方ができるだけ参加できるように、対面参加・オンライン参加・オンデマンド配信の形式で実施しました。そのため、計画時より支出が増えています。詳細につきましては総会時に報告させていただきます。引き続き、今後の活動を見据えて計画的な会計管理に努めてまいります。

■2025年度の会費の納入をお願いします。振り込み時には、大学番号を大学名の前に入れていただくとともに、「ガッコウホウジン」「ドクリツダイガクホウジン」などの法人名は記載しないでください。学校番号+大学名で入力していただきますようご協力をお願いいたします。（会計担当：齋藤千景）

## 協議会活動報告

### 2024年度第4回役員会

日時：2024年7月26日(金)13:45~14:30

オンライン開催

＜出席者＞池添、今野、遠藤、鎌塚、齋藤、鈴木、西岡、三森（記録：鈴木）

＜協議事項＞総会・講演について、総会資料について、一大学の複数加盟について

### 2024年度第5回役員会

日時：2024年8月27日(火)16:00~17:00

オンライン開催

＜出席者＞池添、今野、遠藤、鎌塚、亀崎、齋藤、鈴木、西岡、三森（記録：亀崎）

＜協議事項＞総会、講演について

＜報告事項＞各委員会報告

### 2024年度第6回役員会

日時：2024年9月6日(金)17:00~18:00

場所：BasisPoint新橋日比谷店

＜出席者＞遠藤、鎌塚、三森、池添、亀崎、齋藤（記録：齋藤）

＜協議事項＞2024年度教育セミナーについて、20周年記念行事について

### 2024年度第7回役員会

日時：2025年1月13日(日)9:30~12:00

オンライン開催

＜出席者＞荒川、池添、今野、遠藤、亀崎、鎌塚、齋藤、鈴木、西岡、三森（記録：西岡）

＜協議事項＞総会・講演の振り返り、20周年記念行事について

＜報告事項＞各委員会報告

### 2024年度第8回役員会

日時：2025年3月3日(月) 11:00~12:00

場所：品川ステーションビル5階A号

＜出席者＞荒川、池添、遠藤、鎌塚、齋藤、鈴木、西岡、三森（記録：三森）

＜協議事項＞20周年記念行事について、ニュースレターについて（庶務 三森寧子）

## 編集後記

ニュースレターは年2回発行です。そのため今回は、昨年9月の総会と、それ以降の活動報告が中心となりました。活動内容に関心を持って積極的にかかわっていただければ嬉しく思います。

（広報・渉外委員会：西岡かおり・鈴木裕子）

## 日本養護教諭養成大学協議会

<http://www.j-yogo.jp/>

### 【事務局】女子栄養大学

TEL&FAX：049-282-3609（事務局）

Mail：yogojimu@j-yogo.jp

